

まちづくりネットワーキングえひめ

舞 たうん

VOL 65



愛媛県 明浜町

特 「輝いている女性のいるまちは元気」 集

- 「高橋邸」に夢を描いて 内子町 FUGA
- 「やろう!!」 伯方町 人形劇団ほび
- 四国久万高原 香り工房の歩み 久万町 香り工房
- 甦れふるさとの川 野村町渓筋地区 みずすまし
- まちづくりア・ラ・モード 新居浜市 マイントピアを楽しく育てる会

■アングル

俳人 夏井いつき

■論談—まちづくり—

愛媛大学農学部 中道 仁美

■キラリ光るまち

鳥取県 倉吉市 福田 京子

好評連載

★歩キ目デス&足ラテス

岡崎 直司

アングル

| | | |
|---------------------------------|----------------------------------|----|
| 元気印の定義 | 俳人／夏井いつき | 1 |
| 特集 『輝いている女性のいるまちは元気』 | | |
| 「高橋邸」に夢を描いて | 内子町／富士森方子 | 2 |
| 「やろう!!」 | 伯方町／山岡美穂子 | 4 |
| 四国久万高原 香り工房の歩み | 久万町／村上千代子 | 6 |
| 甦れふるさとの川 | 野村町／大塚民恵 | 8 |
| まちづくりア・ラ・モード | 新居浜市／前原和子 | 10 |
| 論談一まちづくりー | | |
| 女性が参画できるまちづくり | 愛媛大学農学部／中道仁美 | 12 |
| キラリ光るまち | | |
| 男女の枠に囚われず、互いの特性を活かして | 鳥取県倉吉市／福田京子 | 14 |
| 媛のくにフラッシュ〈別子山村・広田村・明浜町・宇和町・野村町〉 | | 16 |
| リレーでちょっとトーク | | |
| 子どもとともに | 内海村／那須ふさの | 18 |
| 故郷 面河 | 面河村／渡部ゆかり | 19 |
| 風おこしのちかい | | |
| 今治づくり・バリ人(菌)づくり | 今治市／越智紀方 | 20 |
| グローバルな眼 | | |
| 「第三の道」とまちづくり | (財)えひめ地域政策研究センター 常務理事・統括部長／茂木愛一郎 | 22 |
| MY TOWN うおっちゃんぐ 「歩き目デス&足ラテス」 | | |
| 「双龍の箱棟」 宇和町 森川家 | 岡崎直司 | 24 |
| 研究員レポート | | |
| 路上観察で新しい発見! | 橋岡勝一 | 26 |
| 小大下島を考えるミニフォーラム | 森田浩二 | 27 |
| 女性が活躍する地域社会 | 三好誠子 | 28 |
| Information | | |
| まちセンからのお知らせ | | 29 |

特集

「輝いている

女性のいるまちは元気

今、結構女性たちが元気です。

あちこちで本当にきらきらと輝いている女性たちに出会います。

その度、このパワーはどこからきているのだろうと思うと同時に

生き生きとした立ち居振舞いや笑顔に力づけられたりします。そして、ほとんど例外なくこういう女性たちのいるまちは元気です。

そこで、今号は、地域の中で地道にしかも確実に根を張つて

活動している女性たちの活動を通して、地域の元気のもとを探つてみると、この特集を組みました。地域で、職場でそして家庭で活躍する女性たちが多く登場します。あなたのまちの活動の参考になるでしょうか。

表紙の言葉



柳原あや子

河童の恩返しの伝説が、ここまで親しまれているのは土地の人柄でもあるのでしょうか。静かな町も夏のレジャーシーンには、人、人で海を求めて活気づく。

リアス式海岸が山を包み美しい景観の明浜町は、思ったより近い町でした。町には、土地の人柄エンコ様と呼んで、若宮様を守る河童の狹犬は全国でこの一例。

俳人
夏井いつき



直に反応してただけのことだ。

膝をつきあわせて楽しむのが定石の句会を、もっと大人が数でビジュアルに楽しめないかと考えた『句会ライブ』。俳句と写真を合体させた表現つて素敵じゃないかと思いついたポストカード『恋する俳句たち』。全国の高校生を松山に結集し、俳句バトルを繰り広げたらエキサイティングだぜっ!と考案した『俳句甲子園』。

アメリカで開催された詩のボクシングに対抗した『俳句ボクシング』。作品を発表するだけの紙面ではなく、視聴者参加番組のようなノリで楽しめる俳句誌はできないかという発想で生まれた俳句マガジン『いつき組』。

「いつきさんは、いいよ。元気な俳人って滅多にいないから、それだけでもウリになる」尊敬する俳人の一人・仲原道夫さんは、私の顔を見る度にそう言つて下さる。

別に、元気をウリにして、

この魑魅魍魎の俳句界でのポジショニングを狙ってきたわけではない。面白いことに出会う度、ワクワクするアイデアが浮かぶ度、己の欲求に素

もたれたりするのも、ナルホドうなづけなくもない。

しかし、だ。ちょっと考えていただきたい。俳句と無縁の方々もご存じのように、俳句界は未曾有の高齢化社会。五十年代六十年代の俳人が堂々と新人賞をもらつちやつたりする特異な世界だ。そんな現状を踏まえ、若い世代に俳句の楽しさを伝えたいのだ、自分

の結社誌の購読者を増やしたいたのと企んでみても、まさに四苦八苦五里霧中の現状が広がっているばかりだ。

では、それを打破するためには必要なものは何かと考えれば、元気だのファイトだのは当たり前前のアの字。「熱意だけ

れん坊将軍ぶりを外野で傍観する保守系? 文学派俳人の方々が、「ナツイさんなんぞに未来」について憂いたり、その行状に拍手をおくる絶対数が増えてくる現状に危機感を

もたれたりするのも、ナルホドうなづけなくもない。

ただし元気なだけでは、工事現場のブルドーザーとかわらない。

はつきりとした目的意識、柔軟な発想、不屈の行動力。

とは、広い視野と深いビジョンなしには成立しないのだ。

七転八倒孤軍奮闘二十年の俳句人生の中、やつとこんな当たり前の答えを手に入れた私は今、『俳都・松山復活計画』

と名付けた構想に夢中だ。松山に俳句界の梁山泊を作り、新鮮清新かつ本格的な作品を

バンバン発信してやろうと、仲間たちと共に熱い野望を育て続けてている。

1

特集

『輝いている女性のいるまちは元気』

に入社。その後六年間ビール醸造研究のためにドイツに留学されました。帰国後は国産ビール一筋に歩み、大日本麦酒(株)社長に就任するなど、我が国ビール業界の功労者です。

戦後は日独協会会长、日本

商工会議所会頭など経済界の巨頭として活躍し、第三次吉

田内閣の通産大臣として日本経済の復興に尽くすなど功績は多く、一九六四年に勲二等旭日重光章の栄誉をうけています。

高橋龍太郎さんの長男吉隆

さん(元アサヒビール(株)会長)が、郷土である内子町へ思いを寄せられていたことから、平成五年にその御遺族によつて「高橋邸」は内子町に寄贈されました。

高橋邸は内子町に寄贈されま

女性グループ 「FUGA」の結成

文化交流ヴィラ「高橋邸」の企画運営は、町内の女性九名で行っています。メンバーは主婦、酒屋、衣料品店、建設業、勤め人などと様々ですが、いずれにしてもズブの素人がいざれにしてもズブの素人がいざれにしてもズブの素人ばかりです。

まずはグループに名前を付けようと、皆さんで相談して選んだのが「FUGA」です。風雅、フーガ、とても響きの良い名前です。そうして歩み始めたのが、平成八年四月でした。

何事もメンバーで相談して決める、それをモットーに月一回の例会では、本音で話合い、知恵を出し合います。最初は屋敷清掃や花畠の整理

庄屋の流れをくむ門構えの屋敷「高橋邸」は、高橋龍太郎さんの生家です。

高橋龍太郎さんは内子町で生まれ、松山中学(現松山東高等学校)、第三高等学校(現京都大学)に学び、大阪麦酒(株)(アサヒビール(株)の前身)



高橋邸全景

「高橋邸」に夢を描いて

FUGA

〈内子町〉

富士森 方 子

などに汗を流しました。少し慣れた頃から、高橋家の歴史の学習会、お茶のマナーなどの勉強をはじめました。

何をするのもメンバーだけ

の企画運営ですから大変な作業です。しかし張り合いもあります。施設の会場貸し出し、コーヒーの上手な入れ方、手芸、フリーマーケット(毎回大好評です)、ドイツのローデンブルク市民歓迎茶会など、数多く実施しました。三年間の積み重ねで、昨年七月八日から、「高橋邸」の當時公開と喫茶を、オープニングすることができます。

八日市・護国町並みのコ

ースから少し(二~三分)離れていますが、閑静なたたずまいと庭を眺めながら飲むコーヒーはとてもおいしいと言つていただいております。九名が当番で担当しますが、お互いを思いやり助け合つて当たっています。

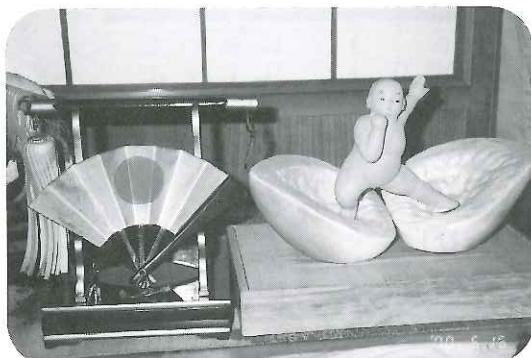
今では、会場貸し出しの時など予約があれば食事も作れ

るようになりました。又、部屋の一角にはメンバー手作りのおみやげも置いております。

「歳時記」の復活

「高橋邸」を単なる施設見学だけに終わらせたくないと考え、また町の暮らしを語り継ぐ意味でも「歳時記」を思いついてみました。年中行事の思い出を持たれている方を招いて、「歳時記」談義を開催したところ、早く参加していただき、

今年初めて行った5月人形の展示



「お節句（五月）」町内の方に
協力を依頼して、明治から大
正時代にかけての五月人形を
展示しました。それを新聞に
取り上げていただきました。
チケットの販売から会場準
備、おだんご作り、後かたづ
けと、すべてメンバ一の手作
りで、れども今年は新たに

莘名月（十月） 松山からソロのアカペラ歌手を招き、抹茶とおだんご付きのお月見会を実施しました。「秋の夜長に歌声に酔いしれるのもいいものだ」とほめていただき、うれしく思いました。

「お節句（五月）」町内の方に協力を依頼して、明治から大正時代にかけての五月人形を展示しました。それを新聞にも取り上げていただきました。

チケットの販売から会場準備、おだんご作り、後かたづけと、すべてメンバーの手作

ク作りができればと大きな夢を描いております。

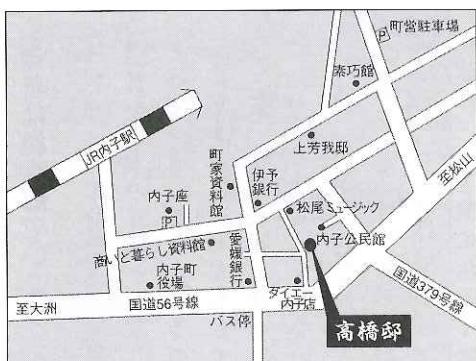
（公開）午前九時～午後四時三十分

世界に誇る高橋龍太郎さんの生家の玄関には、「止談風月無用者可入」（ただ風月を談じるなら用事がなくとも屋敷に入りなさい）という墨書の看板が今も掲げられています。

瀬戸会長が「高橋邸」を訪問され、懇談しました。会長は「内子町が生んだビル業界の先人を顕彰するためにも今後高橋邸を大いにバックアップしたい」と話されました。あ
りがたいことです。

りです。本当に大変ですが、苦労して成し遂げた後のよろこびはひとしおです。今後は、さらに色々なことに挑戦して

文化活動の拠点



高橋邸案内図



石見銀山（島根県）のプラハウス 松場登美さん（前列中央）
を囲んでメンバー勢揃い（前列左から2人目が富士森さん）

特集

輝いている女性のいるまちは元気

「やろう!!」

人形劇団「ほび」

〈伯方町〉

山岡 美穂子

の人形劇を届けたい」との想いからで、ほびになつてからもその精神は受け継がれています。そしてその流れの一つが、毎年夏に開いている「伯方人形劇フェスティバル」です。

これは、日本各地で活躍しているプロの劇団を招いて、大人も子供も一緒に児童劇、人形劇を楽しむ催し物です。年に一度のイベントですが、なかなか良い劇団を招いていなつと、ほびは思っています。

「人形劇フェスティバル」

と銘打っているからにはせめて2日間はやりたいのですが、あれこれやつた上で伯方の人々等の関係から一日限りに落ち着きました。喉元まで人形劇でいっぱいになるより腹八分目で「あー おいしかった」と感じてもらつた方がいいでしょう？。

「こんにちわあ
人形劇団ほびです。」

弾む音楽に乗り、この言葉で始まってゆく「ほび」の人形劇。ほびの活動は七年目に参りました。

ほびの前身「伯方おはなしキャラバン」が伯方島で結成されたのは「島の子供達に生

前夜祭があり、プロの出演者の方々や、福山などのアマチュア劇団との交流の場で毎年盛り上がっています。お

料理は「伯方お料理部隊」の

お姉さんたちです。
昨年の出し物「したきりすずめ」



最初は昔話に手を加えるなんて…と、多少後ろめたさがあったのですが、その後ろめたさをパアーツと吹き飛ばしてくれたのは、あのディズニー映画でした。彼だってアンデルセン童話に始まって、いろんなお話をディズニー風に味付けしている、しかも極上の味付け。「よし！ やろう」そうしてできたのが「ほび版日本昔話シリーズ」。今年はシリーズ三作目で「ももたろう」です。只今制作と練習の真っ

今年は桃太郎でいこう

ほびでは三年前から人形劇の題材を日本の昔話から取り上げているのですが、そのまんまと、とてもじゃないけれど四十分ものお芝居にならない

タイトルの前に、ほび流に色々と味付けをしていま

す。ほびはこの場で人形劇をやるのがいつの間にか習わしとなり、二年前の「したきりすずめ」を上演した時、何て言われたと思います？ 「じいとすずめの援助交際物語。」ほび一同、口をあんぐり。あの腹のぱつたりとして感じてもらつた方がいいでしょう？。

人形劇フェスティバルには

プロの目で見た前夜祭

ています。

ほびの前身「伯方おはなしキャラバン」が伯方島で結成されたのは「島の子供達に生

ほびは当初、人形劇道具一式をすべてプロから借り受けていました。そのうちに、このままでいつまでたってもストックができないと言うので人形を創り始め、脚本も「なんかピンとこない」と感じ



何でも手作りほびのメンバー（前列右が山岡さん）

始めて、自分で書くようになりました。

「できない」とか「解んな
い」ではなく「やろう」だと
思います。ほびのメンバー誰
一人専門的な知識はないけれど
ど、「やろう!」なのです。そ
したら、あらら不思議、「でき
ちゃった!!」

ほびの活動に加わって一番嬉しく思つてゐることは、沢山の、達成の出来事がでて。そ

山の人達との出逢いです。学生時代と違い、大人になるとなかなか新しい友達と出逢えないものですが、ほびのおかげで沢山の素敵なお方々と出逢え

い続けています。それも女性の方が多いですね。男性はどこに行っているのでしょうか。

伯方お料理部隊（この呼び名、私が勝手に付けて呼んで

いるのですが、でも気に入っています」との出逢いもそうです。彼女達はポランティアで伯方人形劇フェスティバルに参加し、前夜祭を盛り上げてくれるのです。ほびのメンバーも時としてお料理部隊の



今年の人形劇フェスティバルに向けて準備に大忙し



「伯方ゴミ問題研究会」とみんな料理うまいんだもん。一員になるんですよ。だってか、「伯方女性塾」主催の何とかがあり、お料理部隊が必要な時は人形を包丁に持ち替えて即変身!! このような関係がもつともつと展開してゆけば、伯方島は今より更に素晴らしい所になるはず!と、私は思うのです。

人形劇から始まって素敵な人々と出逢い、一日がもう少し長かつたらなーと思います。そしたらアレもできる、コレもできるでしょ!?

伯方島は今より更に素晴らしい所になるはず！と、私は思うのです。

人形劇ファンタジバル@東京

★日 時 8月27日(日) 午後1時30分から

★日 時 8月27日(日) 午後1時30分
★場 所 伯友町中央公民館（役場隣）

★出演者 田中大公民館 (原
川喜一 (馬頭琴奏者))

★田演者 ブル (馬頭琴奏者)
ののはな (人形劇団)

あなたも、島に来てくださいね

「よし！ やろう！！」つて一緒に言ってくれる仲間がいるんですね。

特集

「輝いている女性のいるまちは元気」

スキー場には多くの人々が集まります。又、四国八十八カ所靈場の真ん中四十四番大宝寺より四十五番岩屋寺への参道の門前町で栄えた上浮穴郡の中心を担う、材木と高原文化の町です。

四国久万高原 香り工房の歩み

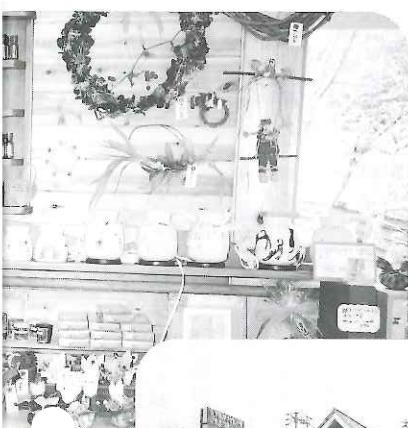
香り工房
(久万町)

村上千代子

久万の香りを求めて

私達の住んでる久万町は
松山より一時間ほどの標高四百五十メートルの山間地で、
自然の美しい、人情豊かな所です。その標高の高さから四
国の軽井沢と言われ、夏は涼しく、山々の緑が目に映え、
小川のせせらぎに心いやされ、

成分が見つかりました。この成分のことは日本化学会で発表され、結果としてお香の商品を開発することに成功しました。そしてこのことが全国的に注目さ



「香り工房」全量



町内のイベントや商工観光課の行事にも参加させていただいているております。

この様な郷里を愛する女性
七名の会員で、「白い花」の香
りをテーマに、国内外視察・
研修を行い、やつと「朴（ほ
う）」の花」「ささゆりの花」に
たどり着き、商品化するため
の研究をすすめました。

各自のヘソクリを出資して商品の仕入れをし、全員が仕事をしている為、当番制で土・日・祝日のみの営業で二年間頑張りました。

小さな館ではありますか
お香だけでは商売としては成
立せず、会員自ら山へ行き、
カズラを取つてきてリースを
作つて飾つたり、トウキビ・
トウガラシ・ホウズキ・ドラ
イフラワー・世界に一つしか
ない香立て、独自のデザイン
のアロマポット・木工品他、
各種展示販売しています。

また、年に一度は久万町の
やまなみホールをお借りして
いろいろな人達に知つても

れ、商品開発をすることになりましたが、肝心の販売する

ログハウスを拠点に さまざまな活動

での情報発信を行っています。

「人の心に安らぎを」
を活動テーマに

会員の努力により気が付いてみると早くも五年の月日が過ぎました。五年を一区切りに、近年ハワイ旅行も夢ではないと、集合日でもある曜日の夜にはお茶にお菓子をつまみながらのおしゃべりが絶えません。その中で、新企画も出できます。

今迄に、雑誌やテレビ・ラジオ・新聞などに多くの情報をお流していただきました。又、久万町のオフトークでインタビューされたりして、少しは久万町の開発品を知つてもらいました。



香り工房のメンバー (左から2人目が村上さん)

たいと思つています。
今後の私達の最高目標は、
いろいろな香りの商品開発と、
現在ある館よりもう少し大き
な、今度は白い館を持ちたい

などいは最高の場所で、ここに何かの香りがあれば幸せな気持になれるのでは…。私達の目的も、「人の心に安らぎを」をテーマに、多くの人に香りのエッセンスを送り

ルそれに、ささゆりの香りの
オーデコロン・ささゆりの香
りのアロマオイルの良さを知
つてもらいたく、一生懸命努
力している最中です。疲れた
時、何らかの形で心和む空間
があればと思います。

しかし、私達は、日本全国の方々に久万町の朴の香りのお香とインセンス・朴の香りのアロマオイ

待ちしております。

客さんも素通りされがちで
すが、少し気
にとめて頂
き、是非お立
ち寄り下さい
ます様、会員

ものだと胸に秘め、大きな目標に向かって皆で仲良く頑張つていこうと日々努力しています。

な商品豊富な店舗にして、これから的新商品を夢見ながら、いろいろな人のアドバイスを聞き、久万町の発展に少しでも力になれたらと思つています。



店内風景



特集

『輝いている女性のいるまちは元気』

甦れふるさとの川

溪筋地区環境グループ みずすまし

〈野村町〉

大塚民恵



美しい流れの稻生川

「この補助金を溪筋地区の為に使いたい。」そんな思いで、日頃から環境問題に関心を持っている人に声をかけることにつづった。そして集まつたのが十五名の仲間です。淨化槽管理士、団体職員、主婦、元教師、公務員と職業はさまざまですが、チームワーク抜群の「溪筋地区環境委員会」が発足しました。

子ども達へきれいな川を

溪筋地区、縦長い地区の中央を流れる稻生川。「この川が汚れると下流に住む人たちが困るので、上流に住む私たちが排水に心がけ、きれいな水を流したい。」

「昔は蛍が顔にぶつかってくるほどたくさんいた。子ども達が安心して遊べる川を取り戻したい。」会員の思いはみんなで熱い思いで決めた活動テーマが「ふるさとの川をきれいにしよう！」です。

溪筋地区を野村町環境美化モデル地区に指定したい
化モデル地区に指定したい
平成四年四月、町生活環境課
の担当者から「リブ」にお話
がありました。

リブは、平成二年四月に、
當時溪筋婦人会の役をしてい
ました。

「溪筋地区を野村町環境美
化モデル地区に指定したい」
平成四年四月、町生活環境課
(平成四年～六年まで)です。
降つてわいたような話に戸惑
いましたが、「やってみよう」と
いうことになりました。

溪筋地区環境委員会へ
「リブ」から
「溪筋地区環境委員会」へ



川の様子を調べる子ども達

すまいと三角コーナークリーンネットの全戸配布、水を考
えるシンポジウムの開催、機
関紙「水すまし」の発行、溪
筋川まつりへの参加等々。最初は好きな者が何かやつていて、周囲の関心はなかったものの、徐々に住民の関心も深まり、川にゴミを捨てる人は確実に減ってきたようになります。

な同じです。

皆さんも川で遊んだ幼い頃



活動を話してくださいましたみすましの中心メンバー
左から宇都宮さん、大塚さん、大野さん

を思い出すことはありませんか？川はゆるやかに蛇行し、深みがあり浅瀬があり、飛び込みの出来る大きな岩、魚が集まつてくる場所、ゆるやかな川が大雨の時には渦流となり、危険な場所になることも知っていました。

子ども達は川でたくさん的事を学んだように思います。また、上級生は下級生の面倒をよくみていました。下級生はお兄ちゃんやお姉ちゃんと

一緒に安心して遊ぶことができました。
「私たちの幼い頃の体験を今的孩子達にもさせてやりたい。その為には、昔のようないきれいな澄んだ川を…」私たちの活動にはそんな願いが込められています。

最近、河川の様子は大きく変化してきました。コンクリートの三面張りが多くなり、水量も減ってきて淀みはなくなり、自浄作用をなくしています。

また、近年は生活様式の多様化に伴い、水質は富栄養化傾向にあると言われ、汚れの原因にもなっているようです。

そこで、家庭で水を流すと

き、チョット手をかければ随分違います。私たちは環境についてお話しをする時、「チョット手をかけて」とお願いします。手をかけると言うことは手間をかけるということです。「お米のとぎ汁をそのまま流さないで草花にやつてください。」「粉セッケンは溶けに止まり、振り返り、二十二名

くいけど、ぬるま湯やお風呂の残り湯を利用すれば溶けやすくなりますよ。」「汚れた食器やフライパンは、Tシャツなど古い布を小さく切って拭いてきれいな澄んだ川を…」

き取ると洗剤が少なくてすみますよ。」とすすめています。

これから

今後の活動の大きな目標は

① 子ども達との交流を深め、後継者を育てるここと。

② 水の源、「森づくり」について、関係機関と一緒に勉強会を開きたいこと。

③ 活動を理解し、実際に行動していただく住民の方々の協力を得ることです。

私たちの活動はとても小さな活動です。「舞たうん」掲載の原稿依頼を受けた時、一度お断り致しましたが、「普段の活動をそのまま書いて下さい。」と言われ筆を執りました。

お陰様で活動を振り返ることが出来ました。時には立ち



川に住む生物の説明を聞く

特

集

『輝いている女性のいるまちは元気』

まちづくり・ア・ラ・モード

「マイントピアを楽しく育てる会」事務局長

前原和子

新居浜で暮らして
新居浜で生まれてから十一年間を過ごし、その後、父親の転勤や私自身の仕事の関係で住所変更は八ヶ所を数えました。現在の地へ落ち着いてから十二年余りの歳月が流れ、新居浜での生活年数と各地での放浪(?)生活の年数が釣り合いました。

新居浜の素晴らしさは身近な自然と、人々とつながる歴史にあります。海へも山へも思い立つたらすぐに行ける地理的な特徴は、新居浜に暮らしている人よりも訪問者や観光客の皆さんに理解し、活用している感もあります。あまりにも身近過ぎて、その良さや大切さに気づかないことがあります。ちょうど、親元で年月を過ごした子供が、大学進学や就職で一人暮らしを始めて、親の存在の大きさを、身をもって体感するようになります。ちょっと距離を置くから見えてくるものって確かにあります。

自然無くしては私達の生活は成り立ちません。地球規模で環境破壊への警告がなされ、国際的な取り組みや国家的な

新居浜に戻つてから十五年になろうとしていますが、この十五年間は、人との出会いで継られ、新居浜が愛しいまちになつた年月でもあります。

新居浜の素晴らしい花の美しさに感動する心を持つているかどうかということだと思います。

自ら気づき、考え、行動するというたつた一人の生き方が、他の人の生き方につながり、どんどん膨らんだ時に、「自然との共生」が初めて実現すると思います。

私自身は、いろんな事を体験し、多くの人達と語り、刺激を受けて、少し見えてきたかなという状況ですから、うまくはまとめられませんが、まちづくりの根幹を成すのは、人間の「知恵」だと思い始めています。「知恵」は体験と創意工夫によって磨かれ、共に生きた人から人に受け継がれます。親から子へ、老人から若者へと伝わり方は様々でも、伝えられる都度に深みを増して、やがて大きな歴史となります。

別子銅山とのかかわり

そう思い始めた私が巨大な「知恵」だと認識しているのが、今、大きなエネルギーをもつて動き始めている近代化産業

遺産としての「別子銅山」です。江戸から明治・大正・昭和と時代を経て、平成の現在、新たな光が射し込んで、再び鼓動が甦ります。

私自身、曾祖父、祖父、父が「別子銅山」に携わっていましたので、非常に親しみのある「別子銅山」ではあります。親から子へ、老人から



炭焼き体験講座

それを思い知らされました。

A black and white photograph showing a group of approximately ten people in a cave or mine setting. They are gathered around a massive, light-colored rock face that has suffered a major vertical fracture. The rock surface is rough and textured. Some individuals are pointing at specific features on the rock wall, while others look on. The lighting is somewhat dim, coming from overhead lamps. The floor appears to be made of dirt or rock.

ボランティアガイド

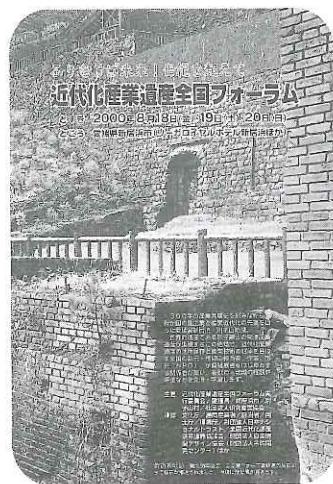


イルミネーション光の渓谷

素晴らしい仲間と共に

往事を偲ぶ建物や遺跡でもないし、技術史や経営学でもありません。私が求めるのはこれまでいた「知恵」そのものであります。時代のそこここに素晴らしい「知恵」がたくさんあります。どこまで行けるかはわかりませんが、共に生きる仲間がいる限り前へ進んでみたままであります。

私のエネルギー源は、仲間や出会いです。出会った人達が個性的で魅力にあふれていたこともあるって、その人達もつと話したい、行動を共にしたいというのが、まちづくりに関わるきっかけだったと思います。全くの自然体で多くのことを体験して来ました。時間が流れると、出会った人達が共に歩む仲間になりました。企業に属しながらも、まちづくりにどっぷり関わるのはそれを理解し、時には率先してまちづくりを進める経営層に出会えたからでもあります。様々な職業、幅広い年齢層の仲間と出会えたことも活動する楽しさを倍に増やしてくれました。また、行政にも魅力あふれる人達がいて、前から引っ張ってくれたり、後から支えてくれたり、一緒に歩いてくれたりと、まさに「みんなのまちづくり」がここにあります。



8月18・19・20日
リーガロイヤルホテル新居浜ほか

私のエネルギー源は、仲間や出会いです。出会った人達が個性的で魅力にあふれていたこともあって、その人達ともっと話したい、行動を共にしたいというのが、まちづくりに関わるきっかけだつたと 思います。全くの自然体で多くのことを体験してきました。時間が流れると、出会った人達が共に歩む仲間になりました。企業に属しながらも、まちづくりにどっぷり関わるのは、それを理解し、時には率先してまちづくりを進める経営者に出会えたからでもありますし、様々な職業、幅広い年齢層の仲間と出会えたことも行動する楽しさを音に曾やしてきましたばかりです。

この夏、大きな出会いの扉が開きます。行政も仲間も専門家の皆さんも新居浜で一堂に会して、語り合い、学び会うという企画が楽しく豊かに進行しています。

「近代化産業遺産全国フォーラム」は、新たな出会いと新世紀に向うための大きなエネルギーの発生源となることでしょう。見知らぬあなたにお会いできる事を心から楽しみにしています。そして、新しい世代にバトンタッチできるよう、より一層「知恵」に磨きをかけることにいたしました。私のまちづくりは始まります。

女性が参画できるまちづくり

愛媛大学 農学部
地域女性政策研究室

中道 仁美

**男女共同参画社会基本法
制定への背景**

日本が国連の女子差別撤廃条約を批准してから十五年が経過しました。六月五日からニューヨークで開催される国連世界女性会議に向けて、昨

夏には、「男女共同参画社会基本法」が成立しました。法律的に最上位の国際法、国際条約を批准すると、その内容に従うことが要求されるため、国内法を条約に合わせて制定、改正することになります。それゆえ、条約の批准には国会(立法)の承認が必要なのです。

女子差別撤廃条約の批准に向けて最初に改正された法律が、男女雇用機会均等法でした。条約批准以降、フェミニストからは、「男女差別禁止法」の制定が強く要望されながら、現在に至るまで見送られてきました。それに代わるものとして制定されたのが、今回の男女共同参画社会基本法です。

二十一世紀に向けて、このような法律が制定された背景をいろいろ考えることはできますが、少子高齢化が最大の課題であることは、基本法の前文にあるとおりです。愛媛

県だけでなく、四国の多くの市町村が、人口の都市への移動による社会減に、出生率の減少という自然減が加わった「人口の減少と高齢化」を、地域再生の根幹にかかわる問題と考えて、その対策に苦慮しています。

女性が社会参画するための支援とは

近年、日本の各地で女性政策が重視されています。女性が住みやすい、生活しやすい社会づくりが求められていますが、依然として、女性に第一義的に「子どもを産む」、「子どもを育てる」という母役割が期待されています。また、構造的には労働力が不足しております。女性には、「子どもを育てながら、労働する」ことが依然

として期待されているわけで、労働加重の原因は無くなっています。

女性が母役割ではなく、社会に個人として参画し、能力を発揮することは、第一義的には期待されていないのです。このことを巧みに表現しているのが、基本法の二条にある「自らの意思」です。ジエンダーリー（社会的・文化的につくられた性の違い）が存在する社会では、自らの意思も、その社会の中で培われてきた（内面化された）ものですから、「真に自発的」意思か、「社会化された自発的」意思か、峻別は難しいのです。それゆえ、「女性が自らの意思を、本当に自由に選択できる状況が作られているのか」が大きな課題となります。

自由に意思選択ができると、女性には、「子どもを育てながら、労働する」ことが依然

いうことなのです。例えば、子育てをしながら、自分の能力を発揮しようとすれば、子育て支援がいかに充実しているかが重要になります。「子どもを育てるのに、母親が一番」ということを良く耳にします。そうであれば、母親が働くためにには、母親が育てるよりも良いと言われるような支援体制を構築せねばなりません。

このような働く条件が整わなければ、女性は育児に縛られ、能力発揮をあきらめるか、子どもを持つことをあきらめるかの二者択一を迫られます。

農村の女性たち

高齢化農村を調査しますと、高齢の老親を見るために、また、老親に代わり農地を守るために、家や集落内に留まっている女性の多いことに気づきます。

家族の負担を増やさない範囲内で、小遣い、家計費を補填するために、むらで働く

場所を探して起業する女性たちがいます。あるいは、息ぬきの場所を求めて、むらで起業する女性もいます。

彼女達は「良い」嫁であることを優先し、自分の自由を制限しても「良い」嫁を選択しています。結婚等のためにその地域に住むことになったとき、自分の立場を良くして、住みやすい状況を創り、保持しようとするなら、当然、人の評価が気になります。「彼女達の住む社会で通用する」「良い」という評価が、「自らの意思」でジェンダー社会に従うことを選択させているのです。

このような「自らの意思」ではなく、「真の自らの意思」「自らの能力」を発揮させることが、これからのもらづくり、まちづくりには重要です。

女性が参画するまちづくり

近年、様々なところで女性たちが活躍しています。例えば、農業女性が運営する直売

所を探して起業する女性たちがいます。あるいは、息ぬきの場所を求めて、むらで起業する女性もいます。

所は、内子町の「からり」のよう、女性達の活躍の場となり、町を活性化させています。広島県では茶屋活動が全県に広まり、観光の一役を担っています。経済活動だけではなく、環境保全運動についても女性の活躍は目覚しく、

北海道の漁協婦人部の植林、海岸美化運動は全国に広がりました。環境条例第一号の琵琶湖条例も、洗濯機を抱えて粉石鹼の使用を訴えた女性達の活動の成果でした。

このような女性達の活躍が、町の活性化の一役を担うことによって、最近は、女性を活用することを考え始めているのです。少子高齢化対策もありますが、彼女達の活動を評価することが、経済的にも社会的にも、有用となつたからです。

例えば、女性の作る農産物加工品が、全国規模で、様々な地域で消費されています。

これまでのジェンダー社会で

は、自家用として、経済的に全く評価されませんでしたが、直売所では、これが「カネ」になるようになります。彼女達の「働き」が、社会的にみえるものになつたのです。

一方、女性の働きを評価することは、女性の「やる気」にもつながり、これが善循環して地域を活性化させています。それゆえ、彼女達の「やる気」をきちんと評価することが大きな課題なのです。それは、男性に集中していた町や村の中枢に女性を登用することを意味します。女性議員、農協役員、農業委員、商工会役員など、マチづくり、ムラづくりのあらゆる場面に女性も参画する仕組みが考えられねばなりません。

女性が自由に、その能力を十分に發揮できる社会づくりが、現在求められているまちづくりの課題なのです。

キラリ光るまち

鳥取県倉吉市

男女の粹に囚われず
互いの特性を活かして

鳥取県ジグおこし団体連絡協議会事務局兼コーディネーター

福田京子



天女伝説の残るまち

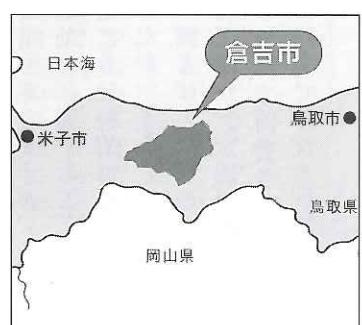
天に帰った母（天女）を慕つて童子が山頂から鼓と笛を打ち鳴らした。倉吉市に伝わる打吹（うつぶき）天女伝説は、全国で唯一楽器が登場する。市民に親しまれている打吹山、打吹公園の名前の由来もそこからきている：そんな天女伝説の残る街・倉吉市は鳥取県中部に位置し、周辺を温泉地に囲まれた農業、観光資源、文化の豊かな人口約五万人の街である。そして現代版天女たちが躍動している姿に出会える街でもある。

古代、伯耆国を中心として栄えた倉吉は、中国山地から習センターなど市内各所の教室で女性たちの手で伝承され、代表的な伝統工芸、物産とし

出土される良質の鉄により刀鍛冶、農鍛冶が発展し、元禄終期には稻扱千刃を生み出した。それを全国に行商する際に着ていた絹が評判を呼び、山陰の代表的な倉吉絹が各地に広まった。その昔、庶民が着られるのは藍の木綿に限られていたが、いかに感性の良い柄を織るかが競われ、技法は秘伝であつたため手技の良い嫁をもらうと蔵が建つと言われた。女性たちの感性で明治時代には倉吉の代表産業として栄え、倉吉の経済を支えた。今もその技術は短大、生涯学習センターなど市内各所の教

赤瓦の活動

で大きな役割を担っている。



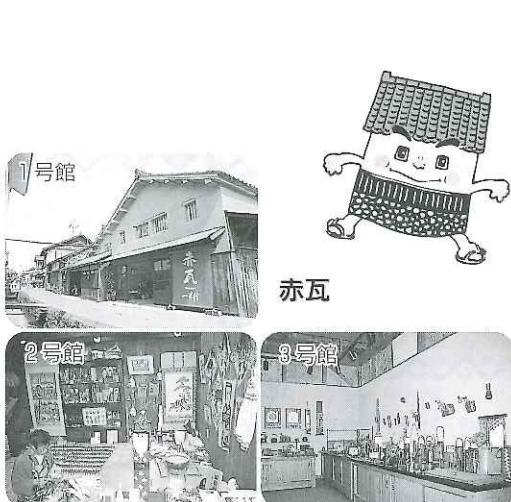
一九九八年春、市街地商店街活性化の起爆剤としてスタートした「まちづくり会社・赤瓦」は「せいとく街づくり会社設立研究会」の活動の中から生まれ、歴史的建造物、商家の赤瓦、白壁土蔵群を活かし、観光客に倉吉らしさを味わつてもらえる場所として、周辺の事業者、行政、金融機関などの出資、補助により設立された。竹細工、はこた人形など、伝統工芸などの店が軒を並べている中で、倉吉絹、染めと織物、絵手紙、特産物などが集まっているのが一号

経営者としての女性達

館である。手焼きせんべいの香ばしい香りに誘われて足を踏み入れると「いらっしゃいませ」と天女たちの元気な声が迎えてくれる。六種の味が楽しめるせんべいは赤瓦オリジナルブランド商品として評判を呼んでいる。「オリジナル商品の開発、企画が楽しい。喜んでいただけるものを増やして行きたい。周辺観光地と情報タイプも進めたい。」と意欲的な主任。二階には、鳥取県産の紅茶も楽しめる紅茶専門店などもある。「来て下さる方との出会い、ふれあいの中で学ばせていただくことも多く、ありがたい」と言う店長は盆の上に季節折々の小さな彩りをそつと乗せ、彼女らしいもてなしをする。赤瓦は現在七号館まであり、周辺にも素敵な店が増えてきて日々魅力アップしている。

景気悪化のご時世に小規模ながら経営者として輝いてい

る。手焼きせんべいの香ばしい香りに誘われて足を踏み入れると「いらっしゃいませ」と天女たちの元気な声が迎えてくれる。六種の味が楽しめるせんべいは赤瓦オリジナルブランド商品として評判を呼んでいる。「オリジナル商品の開発、企画が楽しい。喜んでいただけるものを増やして行きたい。周辺観光地と情報タイプも進めたい。」と意欲的な主任。二階には、鳥取県産の紅茶も楽しめる紅茶専門店などもある。「来て下さる方との出会い、ふれあいの中で学ばせていただくことも多く、ありがたい」と言う店長は盆の上に季節折々の小さな彩りをそつと乗せ、彼女らしいもてなしをする。赤瓦は現在七号館まであり、周辺にも素敵な店が増えてきて日々魅力アップしている。



る人もいる。一九九〇年いち早く介護用品の店「アイム」を開店した彼女は、「女性が事業を起こすのは融資、契約など信用面でも大変だつたが徐々に業績も伸びた。十周年で介護保険が始まり、ホームヘルパー派遣会社も開業し多忙である。夫はまだヒヤヒヤしているかも」と笑う。建築設計者たちと在宅介護仕様の研究も続けている。次はこの春オーブンしたばかりの「ワーカーズコレクティブ（自ら出資し自ら働き経営する）パ

ンジー」が目に入る。女性数人が出資し運営している小さな店だ。手作りの手芸品、工芸品の展示販売、ミニ講演会、情報の集発信など多様な活用が出来る場所として注目されている。スタッフの一人は「自ら楽しみ出会いの場を作る」ということを大切にする。利潤追求に走ることが目的ではないが、趣味ではなく商売という点が刺激になる。新しい出会い、自己実現の場、高齢になつても参加できる場にしたい」と語る。教育、福祉、女性問題などに取り組んでいた女性の発想だから走り出せたのもしない。

みこしで街もかつぐ

“風雅” の活動

「女性が元気だと街も元気!!」を合言葉に「みこしネット”風雅”には粹な天女たちが大集合。賀茂神社の氏子青年会が「祭りは女性も子どもも一緒になつて」とみこしを手作りしたのを機に、女性の飛天

(天女) みこしが結成され、大いに祭りを盛り上げ話題になつた。担いで走つて男性みことの競演と気分は高揚の一途。他でも担ぎたいと言うメンバーの声が多くなり、県内外からの要請も多くなつて来たが、飛天みこしは神社のものであるため外には出せない。それなら自分たちでグループを作ろうと一九九四年『みこしネット”風雅”』を結成。白い晒しに法被をまとい、キリッと鉢巻を締めた粹でいなせなお姉さんたちは「さあ、脱ぐよ！」の声に片肌脱いでワッショイ、ワッショイと練り歩く。実は愛媛県とも深い関係がある。三年前の地域づくり団体研修交流会で意気投合した『津島牛鬼会』の方が牛鬼を引き連れ倉吉の夏祭りに来て下さつて風雅との競演が実現し、現在もお互いの祭りに参加し交流している。



みこしをかつぐ風雅のメンバー
(一番後方が福田さん)

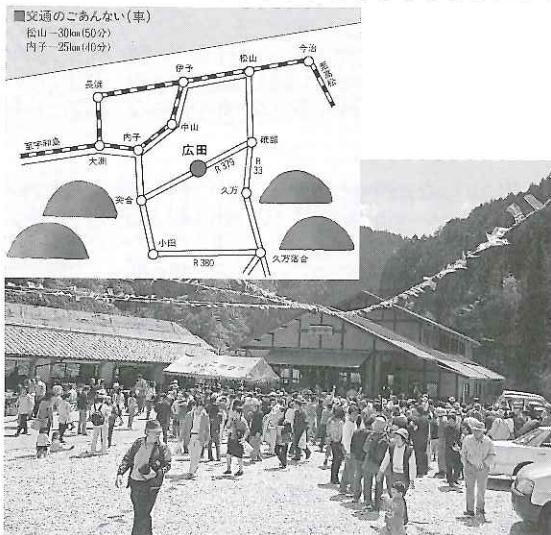
が提唱されている今、様々な問題に女性も責任を持つて関わつて行く時代になつたが、小さな枠の中ではなく、性別を超えて知恵の連携をして解決して行くことが必要だろう。倉吉の女性たちも「女性だけで！」と肩肘張つているのではなく、理解、協力してくれたが、飛天みこしは神社のものであるため外には出せない。それなら自分たちでグループを作ろうと一九九四年『みこしネット”風雅”』を結成。白い晒しに法被をまとい、キリッと鉢巻を締めた粹でいなせなお姉さんたちは「さあ、脱ぐよ！」の声に片肌脱いでワッショイ、ワッショイと練り歩く。実は愛媛県とも深い関係がある。三年前の地域づくり団体研修交流会で意気投合した『津島牛鬼会』の方が牛鬼を引き連れ倉吉の夏祭りに来て下さつて風雅との競演が実現し、現在もお互いの祭りに参加し交流している。活性化にも繋がつていくのではないかだろうか。

● 媛のくにフラッシュ ●

農産物販売所

『峠の館』

広田村



〈問い合わせ先〉

毎週金曜日

午前八時～午後五時

☎ ○八九一九六九一〇七〇

峡の館

（問い合わせ先）

（営業時間）

ひろた」に農産物などを販売する施設「峠の館」がオープンしました。他にも体験実習施設の「ふるさと生活館」や、宿泊できる「交流ふるさと宿」などもあります。森林浴ドライブを楽しんだ後、立ち寄ってみてください。山の幸がたっぷり楽しめます。

森林公園

『ゆらぎの森』

別子山村

別子山村 ゆらぎの森周辺MAP



（定休日）
毎週水曜日
（問い合わせ先）
ゆらぎ館

（定休日）
毎週月曜日・年末年始
（問い合わせ先）
宇和町民具館

☎ ○八九四一六二一三三四

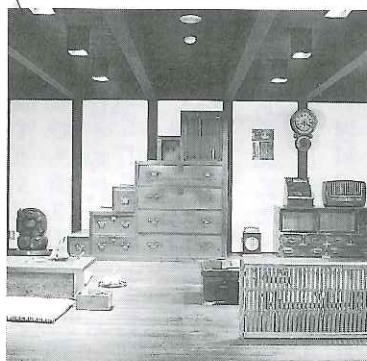
赤石連山の四季折々の景色が望める絶景の場所にあるこの施設は、山村の生活風土や自然環境保護の重要さを楽しく遊びながら学ぶ施設です。

宿泊・休憩ができる「ゆらぎ館」、イベント広場として活用できる日本一大きなドーム型の「パーゴラ（藤棚）」、木工や陶芸などが体験できる「作楽工房」等の施設が整っています。

今年四月にオープンした民具館には、約五千点の民具がテーマごとに多数並べられ、一步足を踏み入れると中町界隈が宿場町として栄えた時代にさかのぼったような気分になります。

『宇和町民具館』

宇和町



☎〇八九四一七二三三五

〈問い合わせ先〉
ほわいとファーム

新鮮な牛乳やアイスクリー
ム、ピザやグラタンが味わえ
ます。



東宇和物産会館

「天然 どんぶり館」

宇和町



〈問い合わせ先〉

一月一日～一月三日

午前九時三十分～午後七時

〈営業時間〉

東宇和郡は、海から山まで自然が豊かで、
そこで育まれた特産品が盛りだくさん。や
がて完成する高速道路のインターチェンジ近くでもあります。ドライバーの途中に是非立ち寄って東宇和の自然の味を堪能してください。

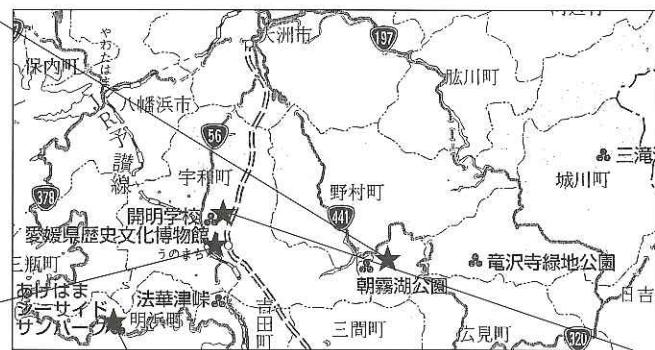
●媛のくにフラッシュ●

農業公園
野村町

「ほわいとファーム」

県内生産量の三分の一を生産している牛乳にスポットを当て、”野村町のミルクを全国に発信しよう”との想いで計画を進めてきた、「ほわいとファーム」。昨年四月に乳製品の製造施設が完成していたのに加えて、今年はレストラン、ふれあい広場、公衆トイレなどの施設が完成し七月十九日にオープンします。

野村町



あけはまオートキャンプ場

「きゃんば」

明浜町

夏“真っ盛り！たくさんのお客様が訪れる明浜町高山の大早津海岸に、あけはまオートキャンプ場「きゃんば」はあります。「きゃんば」にはログハウス風のケビン五棟、アメリカ映画に出てきそうなトレーラーハウス三台、芝生が敷き詰められたテントサイトなどが設置され、気の合う仲間や家族とワイワイガヤガヤ！ゆっくり過ごせる施設です。

予約受付

六ヶ月前から

〈問い合わせ先〉

きゃんば

☎〇八九四一六九一八〇二二

☎〇八九四一六一五七七八

〈問い合わせ先〉

天然 どんぶり館

一月一日～一月三日

午前九時三十分～午後七時

（休館日）

子どもとともに

内海村

那須ふさの

最近、子どもをめぐる暴力や事件が毎日ニュースになっています。「とめられない、とまらない。」これらの事件は、現代社会の抱えている根深い病理と考えざるを得ないと思います。

でも、今、すでに到来している超高齢化社会も、地球温暖化も、環境汚染も、すべてがこの子ども達の双肩に担わられるのです。

地域の子どもを、地域の大人がいかに育てるか？また、如何にかかわれるか？という

ことが、これから地域にどこが大切な鍵になるのではな

いから思っています。

内海村は八地区から成って

います。昨年、約二ヶ月かけて各地区に出向いて、小さな

子どもを持つている父母を対象に、子育て支援セミナーを

しました。この企画の実現が可能になつたのは、教育委員会の協力があつたこと、そして、各地区の公民館の力が大きかつたと思います。

堅苦しい雰囲気を避け、また、父兄が先生から教えるからうというのではないセミナーを企画したつもりです。結果、参加した人達から、こんな機会を何度も作つて欲しいとか、男性にこのセミナー



を受けて欲しい：とか、様々な意見を頂きました。

内海村は、今でも隣近所のつながりがしっかりと出来ている地域です。また、人情味のある土地柄と自負しています。でもそんな地域でさえ、子どもについての不安や、自分の心を癒せない若いお母さんが、常に不安と共に生きている姿が見える思いがしました。

地域の中で子どもを育てると言えけれど、非常に難しいことだと感じています。子ども達が地域の宝だという事を、いつも委ねて行く現実を肝に

铭じておく必要があると思います。

私が、子どもに直接かかわっているもうひとつの事は、CAPという活動です。今は、テレビや新聞などでよく紹介されていますので知つてゐる人も多いかと思います。この活動を通じて南宇和の学校を訪問させてもらっています。そこで、安心・自信・自由という三つのキーワードから、人とのかかわり、自分のこと、そして生きる力を伝えて行きます。毎回、子ども達に教え

られる事ばかりです。どの子も、明日のくる事が楽しみで、学校に行く事も楽しい事で、家にいる時が一番安心できる。そんな風になつて欲しくな！と願つてゐるのです。言い換えれば、そうでもない子どもがたくさん存在している現実が、今の社会の病理を作り出しているのではないかと思うのです。十七歳のバスジャックの事件や、愛知の事件は特別なことは思えません。何時、どこで起きても不思議ではない、そんな思ひです。

さて、今年は、六月から出前方式のセミナーパートⅡとして、男性向けの子育てセミナーを企画しています。未婚、既婚を問わず男性ならどなたでも：となつています。どんな雰囲気のセミナーになるのか、私も今からわくわくしています。

人があつての地域づくりだと思います。私のしている事が役に立つかどうかはわかりません。ただ、幾つになつてもチョット前向きでいたいと思つています。



渡部ゆかり

故郷 面河

「うわあ。すっごいきれい。
花みたい！」

今年四月、私は生まれて初めて樹氷を見た。麓の町ではもう、桜が咲いているというのに、石鎚スカイラインでは

「うわあ。すっごいきれい。
花みたい！」

私の住んでいる面河村は、県中南部に位置し、石鎚山の南麓、石鎚国定公園や面河渓谷をはじめとする山岳美、溪谷美に恵まれた自然豊かな村である。

日本七靈山の一つである石鎚山は、あまりにも有名で、最近では映画『死國』やドラマ『永遠の仔』でもその姿を見る事ができる。そのため、全国でも石鎚を知らない人が幾人かは、その存在に興味をもつてくれただろう。しかし、面河渓を知る人ははたして、どれくらいいるだろうか。「面河」を「おもご」とすんなり読める人も多くはない。石鎚の裏参道で有名になつたとはいうものの、まだま

まだ路肩には雪が残り、樹枝には氷の花が咲いている。樹氷は、白い花のように見えて美しい。カチカチと音を奏でながら落ちていく姿は、桜にも似ていて本当にきれいだった。この自然の神秘を今まで知らなかつたとは…。

小・中学校時代は、それで日本七靈山の一つである石鎚山は、あまりにも有名で、最近では映画『死國』やドラマ『永遠の仔』でもその姿を見ることができます)。

一生知らなかつたかもしれない。(こんな機会を与えて頂き、関係者の皆さんに感謝しています)

小・中学校時代は、それで日本七靈山の一つである石鎚山は、あまりにも有名で、最近では映画『死國』やドラマ『永遠の仔』でもその姿を見ることができます)。

一生知らなかつたかもしれない。(こんな機会を与えて頂き、関係者の皆さんに感謝しています)

だ面河を知る人は少ないはず。景勝面河渓谷にも、数多く古き歴史がある。面河渓谷探勝に伴い、多くの文学者たちが残した作品とか、面河渓谷紹介のために働きかけてきた人たちのことを、私は今回始めて知った。この原稿依頼者の中からだと私は思う。今生きる若者が、いすれば故郷を守る立場となる。ならば若者の中から活動ができる

でもいいし、自然と触れ合つてもいい。故郷を知ることの始まりは、故郷を好きになることからだと私は思う。今生きる若者が、いすれば故郷を守る立場となる。ならば若者の中から活動ができる

すべては今後の青年団活動の中での中で、考へるとしよう。

私は、この面河が好きだ。面河渓谷の美しさに何度も心を救われたことがある。豊かな自然は、人の心も豊かにすると思う。この面河の自然を守ることは、難しいことだと思ふ。しかし、不便さ故、面河渓谷の自然があるのだと信じたい。面河村の「面河」は、面河渓谷の「面河」。面河渓谷の自然と共に面河村はある。いつまでもこの自然を守つて行きたいものだ。

できるなら…。

面河探勝団の方々が行つたように、渓谷で文学を楽しん

市民の手でまつりを

私は、十年程まつりに携つてきましたが、まつりづくりは、街づくり人づくりに繋がると思っています。

もうすぐ、第三回を迎える

今治市民のまつり“おんまく”が開催されます。年を追うごとに参加人数も増え段々市民権を獲得してきたような気がします。実行委員会のメンバーを見ても市民団体・商工会議所・行政と三位一体で、会の運営も各部会の決め事を重んじ着々と準備も進んでいます。

しかし、このまつりにたどり着くまでには結構な年月がかかりています。今から七年前、暑い夏に“バリ祭”といふ踊りを中心としたまつり

(イベント)を打ち上げました。

エスニック調の曲に合せ、踊りも衣裳も自由。当初は、そのような手法ではおまつりは、無理だという人もいました。しかし、市民スタッフを募り、審査も市民の手でというよう

に市民の参加方法をいろいろな角度から呼びかけたところ、年々参加人数も増え、青年会議所が中心となり音楽のハイテンポさも手伝って、若者のまつりというイメージが確実に定着してきました。

また、その当時、秋には、三十数回続く商工会議所主催の“港祭り”が商店街中心に開催されていましたが、このまつりは商店街のまつりだというイメージが強くなっています。

ていました。このように近年、

バリ祭は若者のまつり、港祭りは商店街のまつりと捕らえられる市民が多くなり、市民祭りの要素が薄れお互い伸び悩んでいました。

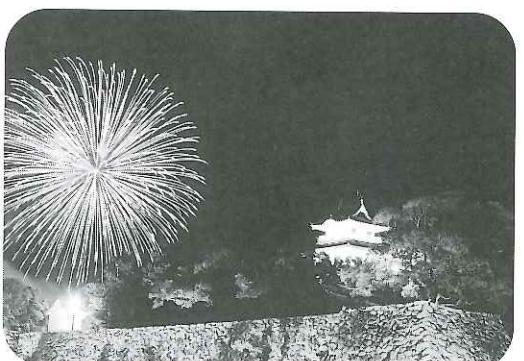
おんまくの誕生

そうした中、架橋開通二年前に、まつりを見直す検討委員会が市民組織でできました。

この検討委員会では約一年間、さまざまなまつりへの思いで議論・検討が繰り返されました。とにかく年一度は全ての

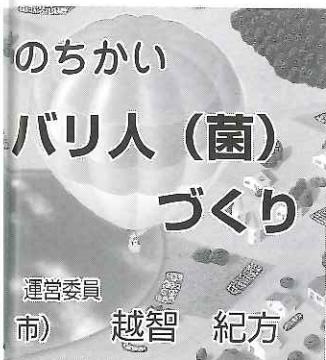
がり、我も忘れるほどの市民まつりにということで二つのまつりの長所を生かし、今治弁で、おもいつきりという意味の“おんまく”が暑い夏に開催される事になりました。

なんと言つても従来のまつりとの違いは、多くのバリ人が自分達のまつりだという意識が強くなり、まさに、市民総参加のまつりに、大きく近づいてきました。そして、回



事もあり、ここ二十数年、人の手でかかれたことがなくトランクの荷台に乗せられ巡回していました。ところが、揚神社(本祭り)が、担ぎ手が少ない

”おんまく”が開催された年、若者達から「本祭りも盛り上



風おこし

今治づくり・

えひめ地域づくり研究会議
(今治)

店街の活力に成るような何かをと、「商人祭り」をはじめました。

まさに、"おんまく"が引き金となつて今治中が元気に成つてきています。

元気の素 バリ菌

がるわけがない」と言う声があがり、氏子で神輿隊ができ、二十数年ぶりに、神輿を人の手で担げるようになりました。今年からは、女神輿も出せるほど老若男女が集いました。

また、秋の「港祭り」のかわりに、商店街の人達が、商

づくりの源はまつりにあると思います。まつりを創る過程で多くの人と出会いコミュニティの輪が広がる、そなれば当然喜びや楽しみが、分かち合える、これこそが、街づくり



持ち関わつて行けば厚みのあるまつりとなり、おのずと後継者も育つてくる事となるでしょう。

こんな、現在バリ菌に感染しつつ、育ち盛りの今治を、私は愛し、共に育ちたいと思っています。

こんな今治を見に来ませんか? 今年の"おんまく"は、八月四・五・六日です。踊りと花火とバリ人を見に・・・。

うか。そして、まつりを通じて一人でも多くの人が、今治が好きになり元気になれる"バリ菌"を保有し感染していけば、より一層、今治が元気になる事は間違いないと確信しています。

とはいってもまだまだ課題は多く、中でも一番の課題は、後継者づくりです。それには、直接、企画運営に携る人達だけでなく、市民の一人一人がこのまつりで自分に何が出来るかという意識を

いまばり
おまく

2000

8/4.5.6

<http://www.islands.ne.jp/onmaku/> 今治市制80周年

私は、本年四月から「えひめ地域政策研究センター」に奉職しております。「まちづくり」



り」の支援活動につきましては、これから「まちセン」の実績を踏まえて、学習しながらやつて参りたいと思っております。さてこの欄では、このところ気になつていて、「第三の道」の議論について、私なりの解釈を加えて紹介してみたいと思います。牽強付会の説りを免れないかも知れませんが、「第三の道」の思想は、「まちづくり」を支える思想と無縁ではないと感じております。

* * *

今日「第三の道」という表現は、昨年二月に発表された政府の「経済戦略会議」最終答申の中に、いわば言葉のモジリとしてまで登場した。ただ、この表現を有名にしたのは英国首相のトニー・ブレアである。ドイツのシュレーダー首相や米国のクリントン大統領をも巻き込んで、二十一世紀に向けてこれから政治哲学は「第三の道」に依拠すべきであるとの主張を行つてゐる。これは、繰り返し議論

り」の支援活動につきましては、これから「まちセン」の実績を踏まえて、学習しながらやつて参りたいと思っております。さてこの欄では、このところ気になつていて、「第三の道」の議論について、私なりの解釈を加えて紹介してみたいと思います。牽強付会の説りを免れないかも知れませんが、「第三の道」の思想は、「まちづくり」を支える思想と無縁ではないと感じております。

になつてきた自由・市場主義と社会主義の対立軸の検討であるとともに、今後構想すべき真にリベラルな社会の方に展望を与えていた。

* * *

「第三の道」と名乗る思想の動きは今世紀はじめに遡るが、本格的には一九二〇年代、自由・市場主義、社会主義両翼から出てきた中道の改革運動である。第二次大戦後には、福祉国家の政治思想に合流している。今日、「第三の道」論が再び注目されているが、これには、サッチャーに代表される一九八〇年代の新保守主義の嵐を通り過ぎる必要がある。新保守主義の矛先は、一九七〇年代初頭のオイルショックによって福祉国家運営の経済的基盤が破綻したにも拘わらず、抜本的な対策の打ち出せない従来の保守主義者や社会民主主義者たちに向けられた。英國のサッチャー改革は、経済の表面的な活性化には寄与したが、所得格差の拡大、

一九九七年政権を奪回した労働党のブレア首相は、「第三の道」と称して、行き過ぎた自由放任主義の弊害を是正し、市場経済における政府の役割を再認識するとともに、社会の構成員相互間の連帯を取り戻そうとする意欲的な試みを開始している。ブレア・サクルのひとりで『第三の道』の著者でもある社会学者のアントニー・ギデンズによれば、現代社会は①グローバル化、②新しい個人主義、③政治制度のあり方、④環境問題への対応を巡つて争点を抱え、現代の政治哲学にはそれらに答える使命があるという。以下は、「第三の道」からのこれらに対する解答である。

① グローバル化

グローバル化は、一九八〇年代後半から進んだ通商・産業・金融面の規制緩和や九〇年代に入つてからの情報通信

公的教育・医療の荒廃といった、回復が非常に困難な事態をも招いた。

* * *

技術の革新によって急速に進んだ現象である。軍事から始まって企業体制や国際金融に至る世界的なガバナンス問題は、なお解を得るのに困難な情況にあるが、国民国家という概念を空洞化させ相対化させたことが当面重要である。EU統合の経験などを踏まえて、国内の中央と地方、政府と非政府組織の関係を再構成させ、下部組織が単独で対処できることは下部の自治に任せ、解決できない全体目標の追求の機能だけを、上部組織に委ねるという分権化の実行を強調する。

②新しい個人主義

福祉国家がもたらした物質的な豊かさによつて階級意識は後退、個人主義が社会全体を覆い始めている。新しい個人主義は一層自己中心的となり、政治に対しても醒めた無関心の姿勢をとりがちとなる。ただ、このような現象の行き着いた先にみられる共同の社会的リスクを教育・市民活動等を通じて認識することによ

り、個人の積極的な社会への参加、連帯を回復しようと試みる。個人がより積極的な人生をおくるようになり、共生性の再認識や社会の安定に繋がっていくことを目標にしている。

③政治制度のあり方

「第三の道」は民主主義の一層の深化を目指している。民主主義に裏づけされない政策運営には本当の意味での権威がないからである。民主主義の手続きに関しては、代議制度のオーバーホールや行政の効率化といった共通の課題がある。公共的役割を担うという意味で政府対民間非営利組織というテーマも重要な要素である。非営利団体やボランティア活動を通じて相互扶助の仕組みを積極的に取り戻そうとする試みが提案されている。これは、利己的個人主義の蔓延と並存する形で、個人の価値観が多様化し、ゆとりが生まれてきたことの反映でもある。今日、官僚や医者・科学者など職業的専門家が致命的

判断ミスを犯すことも珍しくなく、公共的な意思決定には、形式的な授権だけでなく、市民の直接的な意思決定への参画が必要性とされるからである。

④環境問題

自由・市場至上主義者には、環境問題に対する示す知的怠慢にも近い態度か、せいぜいが市場メカニズムを利用した「内部化」による解決という楽観論をとる場合が多い。一方、左派も、技術信奉に基づく楽観論や雇用重視の生産第一主義をとつてきたといつてよい。環境問題への取り組みに関しては、科学的知見が不充分であつても対策を直ちに開始するという、ドイツなどで提唱されてきた「予防原則」の採用を提唱する。「予防原則」は常に有効なわけでもないし、ある場合には「逆」魔女狩りになる危険性も孕んでいる。

ただ、環境問題には不可逆な世代の立場になつて現在を考

えるという姿勢が求められている。

* * *

「第三の道」には、従来からの社会民主主義に通じるエリート臭さが残っているかもしれない。しかし、連帯、平等、社会正義といった価値観を維持しながら、同時に市場経済メカニズムの持つ資源配分機能や経済的インセンティブ機能を重視する現実的な政治哲学であり、論点を包括的に捉え、具体的に政策プログラムを提出していく作業が求められている今日、彼我の差異を越えて参考になる議論ではないだろうか。また「第三の道」には、個人の積極的な社会への関わり、職業的専門家のもの「常識」の問い直しそして分権化・自治の強調など、「まちづくり」の活動思想と共有し、さらに啓発する内容があるのでないだろうか。

宇和町 森川家

①



字和盆地の民家を訪ねてみ
よう。
箱棟という瓦飾りをご存知

今回ご紹介する森川家は、
そんな地瓦のエピソードを身
にまとっている。勿論、地瓦、
地ビールなどと同じご当地モノの
瓦のことである。

入り母屋
屋根、平屋

意匠がやはり気になる(写真①)。
左右から中央の宝珠を伺う
べく双龍が睨み合っている。

正面で見上げると、箱棟の
構造がよくわかる(写真②)。
好瓦の家を森川家が購入し、
現地へ移築したものという。
つまりは、元瓦屋さんの建物
だつた。

"MY TOWN, うおっちんぐ"

歩キ目デス & 足ラテス

第12弾



岡崎 直司

だろうか。これが宇和盆地には結構多い。昔から豊かな米処として知られるこの地域は、また一方で県下第一の飾り瓦の宝庫でもある。中でも、こうした箱棟の乗る民家は、この地の豊かさの象徴にも思えてくる。

さて、県内最大河川である肱川の最上流部、宇和川沿いに立地する永長は、宇和盆地のド真ん中。永らく穀倉地を支えてくれた母なる川は、しかしそれだけではなく、良質な瓦用の土をもたらしてくれた。かつては、この永長地区に町内の瓦業者が所有する土場がいくつかあつたようである。

宇和では四六の家と呼ばれる十四坪の家ということになる。しかし、そこに乗せられている瓦は、何だかタダゴトではない。

③



勇壮な絵柄である。しかも、阿吽一対になっているのはもちろんだが、左右でボーズを変えており、作者の苦心が偲ばれる。こうなつては、間近でその迫力を確かめたくなるのが人情というもの。屋根の上に上がらせてもらった。



②

「双龍の箱棟」



箱棟のB面
側も観てみ
る。と、こ
ちらは龍で
はなくて鯉
が泳いでい
るではない
か(写真③)。

れる秘密なのだと納得した。
こうして六間ばかりの長さに
横たわる二匹の龍を通して眺
めると、雲の間を出たり入つ
たり、実に壯觀である。両サ
イドの雲間には、家紋の「橋」
も配される念の入れ様。これ
は、旧三好家の家紋なのであ
る。尾垂れの位置になる軒
先、軒丸瓦にも、この家紋が
ずらりと入れられている。

さて、屋根の上でこのまま
裏側へ回つてみよう。CD世
代には通用しないが、レコー
ド面のA面B面という感じで、
(4)

のような部分が感じられない
からである。

さて、箱棟だけに留まらず、
この家の装飾性は下り棟（く
だりむね）の所にある瓦にも
発揮されている。鯉、鶴、亀
などである。流石に瓦焼き職
人としての面目躍如。三好瓦
などである。屋の意氣込みが伝わってくる。
今となつてはどういう経緯か
は判らぬが、先代の森川寿郎
氏としても、この家のそうし
門を表しているからに他なら
ないからだ。

つまり、中国の後漢書によ
ると、黄河の上流に龍門と呼
ばれる急流があつて、鯉がこ
れを泳ぎ登り切れば龍になる、
と言われていて、立身出世の
関門に例えられ、「登龍門」と
言い習わされる。五月の節句
などで、金太郎が乗った鯉が
滝登りをしている図をよく見
受けれるが、こうした素朴な庶
民の願いが、この家にも瓦と
いう表現手段で成されていた
のである。家の弥栄（いやさ
か）を祈念したものに違ひな
い。話がずれるが、現代住宅
がどうしても味気ないのは、
こうした人間味豊かな「祈り」

が日本の建築文化における美
意識であるらしい。されど現
代では、キッチンと？塗つてあ
る住宅が殆ど。無国籍住宅の
大増殖。

しかし、残念かな、この森
川家（旧三好瓦）の建物には
もうお目にかかるれない。昨年
末に取り壊されてしまった。
ただ、所有者のご好意で、解
体前に取材できたことと、あ
の重厚な瓦群は、ご安心アレ、
新装なつた宇和町民具館中庭
にて、保存展示されている。
是非見学に出かけて欲しい。

これ程の家なので、他にも
見所が多い。この地方特有の
戸袋の意匠（写真④）や、か
つて養蚕農家だった頃の名残
etc. されど、紙面の都合
こう。

落とし掛けの裏側を観てみ
る。やはり昔の家は本式だ、
ちゃんと下地壁のままである
(写真⑤)。この部分は、家の
中でただ一箇所、意図的に塗
り残す場所なのだ。「月満ち足
れば後欠けるのみ」といつて、
百パーセント完成させずに、

その一步手前で余地を残すの



箱棟のB面
側も観てみ
る。と、こ
ちらは龍で
はなくて鯉
が泳いでい
るではない
か(写真③)。

さて、屋根の裏側を観てみ
る。やはり昔の家は本式だ、
ちゃんと下地壁のままである
(写真⑤)。この部分は、家の
中でただ一箇所、意図的に塗
り残す場所なのだ。「月満ち足
れば後欠けるのみ」といつて、
百パーセント完成させずに、



箱棟のB面
側も観てみ
る。と、こ
ちらは龍で
はなくて鯉
が泳いでい
るではない
か(写真③)。

さて、屋根の裏側を観てみ
る。やはり昔の家は本式だ、
ちゃんと下地壁のままである
(写真⑤)。この部分は、家の
中でただ一箇所、意図的に塗
り残す場所なのだ。「月満ち足
れば後欠けるのみ」といつて、
百パーセント完成させずに、



道後温泉又神殿のお成り門
(皇族専用)の屋根



道後温泉椿の湯 からくり絵



西龍寺の境内にある鼠小僧の墓。右肩から袈裟懸けにバッサリ傷跡が！

—研究員レポート—

路上観察で新しい発見！

研究員 橋岡 勝一

先日、岡崎直司さんや柳原あや子さんが編集された『街角のホームズ』発刊記念の路上観察会に参加しました。コースは、松山市道後の県民文化会館から放生園までの約3km。

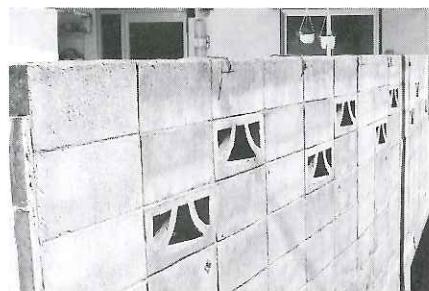
伊佐爾波神社や旧松ヶ枝町の遊郭等の歴史的建造物、江戸時代の大泥棒鼠小僧の墓や笑うブロック塀等の普段なかなか気づかないおもしろいものを観察しました。

私は近所に住んでいましたが、初めて見たものばかりで、「こんなのがあつたんやあ！」ともう驚きの連続でした。いつもは何気なく歩いている道でも、遊び心を持つて楽しく歩けば、新しい発見があるんだなあと実感しました。

きっとみなさんの町にもありますよ！



旧松ヶ枝町の遊郭



ハハハ…と笑うブロック塀



道後公園グラウンドのそばにある謎の鳥居かご？



「温泉」マンホールのフタ。ありふれた丸型ではなく角型であることに注目



話題提供者の話に熱心に耳を傾ける参加者

研究員レポート

小大下島を考えるミニフォーラム

研究員 森田 浩二

五月十三日、えひめ地域づくり研究会議とそのメンバである井村雄三郎氏が所属する「閑前・夢・俱楽部」主催の地域ミニフォーラムに、島内外より約50名が集う。閑前村小大下島。人口78人、65歳以上人口66人。すなわち老齢化率85%。「60・70まだ若手、80代は働き盛り」一種、呪文にも似た言葉を耳にする。自戒なのか、応援歌なのか。

今治港から海上タクシーで来島海峡大橋をくぐり約30分、小大下島に近づくと、すぐに赤いタンクが目に飛び込んでくる。ここは明治以降石灰石採掘の島として隆盛を極めたが、戦後徐々に衰退し、昭和52年完全に鉱山は閉ざされた。そんな島をまずウォッティング。狭い島にいたるところに名残が見える。「これを何か島おこしの手段に」「フォーラムの第一のテーマである。参加者は約二時間、以前鉱山で働いていた島の方の説明を聞きながら散策した。

それから、会場を屋内に移

し、鹿島愛彦愛媛大学名誉教授から地質的特徴から見た小大下島への提案をいただく。岡崎直司氏からは、登録文化財制度を活用し、「近代化産業遺産」として残していく何か等の提案があった。参加者からの発言の中で広島県豊町（閑前村岡村島とは橋でつながっている）の『重伝建を考える会』で活躍されている長浜要悟氏は、観光ボランティアをしている体験をもとに自分が住んでいる地域の歴史や文化的価値を学習することの大切さを力説された。島内の参加者からは、「大変参考になった。時間をかけて考えていく。」との発言があった。

関前村は、高齢化社会の典型的とされ、老人福祉の、特に地域通貨の分野では、全国的にも先駆的な地域とされる。広島国際大学の学生たちもそんな島だからこそ、ボランテ

ニアとして訪れ、ことあるごとにお年寄りと交流をもつている。しかし彼らは言う。「自分たちの方が、お年寄りに元気をもらって帰つている。」人口はこれからも減りつづけるかもしれないこの島で、地域に根ざしあたかくそして強く生きていこうとする人々から、高齢化社会の、都市にはない、むらの明るい明日が少し見えた気がした。そして、夜は盆と正月が一度にきたようになぎやかに更けていった。



石灰採掘場跡は水源池に



— 研究員レポート —

「女性が活躍する地域社会」

研究昌 二好 誠子

二好 誠子

すぐ隣りの市庁舎や道路を隔てたシンフォニーホール・群馬音楽センターなどがある一角にあり、文化の薫り豊かな場所だった。

全国十七道府県二十八研究機関からそれぞれの場面で活躍或いは模索しながら活動している女性を捉えた報告を聞く。性たちの姿が浮かび上がつて

まず、北海道の研究所は、「北海道－ターン女性の意識から見るべき就農支援システム

六月一日、群馬県高崎市で平成十二年度地方シンクタンクフォーラムが開催された。

昨年度の総合研究開発機構の助成研究テーマが、「女性が活躍する地域社会」であり、折から「舞たうん」六十五号の特集テーマ『輝いている女性のいるまちは元気』にも符合することから、参加させていたいた。

会場は高崎市のシティギャラリー、(財)高崎市文化事業団が運営しているこの会館は、

スクールは、96年に開校以来四十名の研修生を受け入れている。北海道というネームバリューはあるものの、女性もIターン希望者の一人として受け入れるという考え方で新鮮さを感じた。

に経営者の）を取り上げていった。経営者でありながら同時に消費者でもある二面性を生かした活動状況報告を通じて、通常でも二役、三役をこなしている女性たちの経営力、地域を活性化させるための意気込みなどを感じた。

その他、介護保険導入による女性の社会進出の事例や子育てグループの社会参加を促す提言を含めた報告、環境問題に取り組む女性達を取り上げたものなど、さまざまな立場での女性の姿が報告され、いずれも興味深い内容だった。

今、世の中は社会全体が暗くよどんでいる。この時期こそ、女性のある種恐いもの知らずで無鉄砲な行動力が必要とされているのではないのだが

今後、新しい発想や行動で地域を明るくしていくのは女性性？そんなことを感じさせた。フォーラムだった。

活までもより楽しく快適に——
ようという女性の力を感じた。
また、女性がつくる商店街
→復活への新たな地平→と題された
研究では、京都伏見の大
手筋商店街で再生のための方
法を探っている女性たち（主

えひめ地域政策研究センター設立記念

「えひめ未来フォーラム 21」開催

—ともに手をとり、みんなで築く明日のえひめ—

■と き 平成12年7月17日(月) 13:00~16:00

■と こ ろ 愛媛県県民文化会館 真珠の間

■プログラム ○基調講演 「変革の時代の地域政策」

講師 佐和 隆光 (京都大学経済研究所教授)

○パネルディスカッション 「交流と連携の時代の政策形成」

パネリスト 西村 英俊 (愛媛県理事)

水木 儀三 (愛媛県商工会議所連合会会頭)

藤目 節夫 (愛媛大学法文学部教授)

若松 進一 (えひめ地域づくり研究会議代表運営委員・双海町地域振興課長)

前原 和子 (新居浜市観光協会事務局長)

コーディネーター 茂木愛一郎 (財えひめ地域政策研究センター常務理事・統括部長)

■問い合わせ (財)えひめ地域政策研究センター TEL089-945-4100

BOOK INFORMATION

●地域づくり

—創造への歩み—

宮口侗廸 著

古今書院

A5版 2,200円(税別)

過疎問題懇談会委員などとして「多自然居住」の概念を提唱し、国土庁地方振興アドバイザー、全国地域リーダー養成塾講師等を務める筆者が、全国の地域づくりの現場での出会いと感想をエッセイ風につづる。



●晴れときどきちろりん

西川則孝・文抄子 著

創風社出版

A5変形版 1,600円(税別)

百姓がしたいと、丹原町来見(くるみ)にやってきた著者が日々の暮らしから食や農、今の社会を考え、夫婦でつづるエッセイ集。この本が売れたら息子の修学旅行費用に充てれるのでと言えるところが西川さんらしい。

晴れときどきちろりん
—丹原町百姓物語記—



●帰農の里

山形高畠町まほろば人からの報告

河原俊雄 著

無明舎出版

四六版 2,200円(税別)

都会から移住し、農業をする人の多い山形県高畠町。その流れを生み出した「まほろばの里農学校」と田舎暮らしの魅力を、著者自らの高畠にたどりつくまでの実体験をもとにつづる。



田園就職はいかが?

都市から移住者の多い高畠町。その魅力と秘密を著者自らの体験から教える

河原俊雄 著
定価1,600円(税別)

●西瀬戸大図鑑

メイドインしまなみ

発行事務局 第一印刷(株)

A4変形版 933円(税別)

しまなみ海道周辺の活動者のグループ「しまなみ交流連携倶楽部」代表の西原透さんが発行人、地元を熟知する磯野洋介さんが海道周辺の魅力スポットを案内。サイクリングマップと特産品カタログが付録。



お知らせ (財団 愛媛県市町村振興協会)

市町村振興 (サマージャンボ) 宝くじが1枚300円で発売されます。

☆発売期間 7月17日(月)~8月4日(金)

☆抽せん日 8月16日(水)

★1等前後賞あわせて3億円のチャンス!

1等2億円が88本、2等1,000万円が132本、3等100万円が1,760本などのほか、夏祭り賞5万円が132,000本もあります。

◆市町村振興宝くじの収益金は、市町村の明るく住みよい街づくりなどに使われます。

2000年市町村振興宝くじ

サマージャンボ3億円

7月17日(月)発売

発売期間7月17日(月)~8月4日(金)

抽せん日8月16日(水)



この宝くじの収益金は市町村の
明るく住み良い街づくりに使われます。

印刷／三創印刷株式会社

発行／平成十二年七月七日
(財)えひめ地域政策
研究センター

〒790-0003
松山市三番町四丁目十番地一
(財)えひめ地域政策研究センター
まちづくり活動部門
(まちづくりセンターえひめ)
TEL 089-(932)7750
FAX 089-(932)7760

内容についてのご意見やまち
づくり活動のトピックなどあり
ましたら、お気軽に『舞たう』
編集係までお寄せください。

センターへ来て、初めて編集
しました。なかなか思うような
仕上がりではありませんが、内
容は充実したものになっている
のです、と思っています。
さて、梅雨明けと共に暑い夏
がやってきます。県内各地でも
七月後半から八月は夏祭りのシ
ーズン。出かけていつてエネルギーを発散させるのも夏を乗り
切るいい方法かもしれません。
でも、くれぐれも暴飲暴食にご
注意を…。